



Title	トリポリのユダヤ教徒の文語アラビア語について
Author(s)	依田, 純和
Citation	関西アラブ・イスラム研究. 2004, 4, p. 63-75
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105862
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

トリポリのユダヤ教徒の文語アラビア語について

依田 純和*

Notes on the Literary Idiom of the Tripolitanian Jewish Arabic

At least from the 9th century onward, Jewish communities in the Middle Eastern countries have had a tradition of Arabic literature written in Hebrew script, which is called “Judaean-Arabic.” Albeit Judaean-Arabic in the Middle Ages has been considered as important subject of research, its modern version, seemingly developed in several communities individually, has not taken attention of scholars. The present article focuses on modern written Judaean-Arabic from Tripoli (Libya) and tries to elucidate several points of its orthography system.

0. 導 入

7世紀にイスラームがアラビア半島の外に拡大すると、中東・北アフリカに居住していたユダヤ教徒は話し言葉としてまた文語としてもアラビア語を採用し、少なくとも9世紀にはヘブライ文字表記による文語アラビア語が用いられ始めた。このようなアラビア語は基本的に古典アラビア語に準じたものであり、その書き手も古典アラビア語の素養があった者の手によると考えられるが、古典アラビア語の文法規範にそれほど執着していなかったため誤った格変化や文語では実際にありえない形式などが混入しているのが特徴的である。またヘブライ語・アラム語の語句が頻繁に挿入されている。

1948年のイスラエル建国までに、中東・北アフリカのアラビア語圏のユダヤ教徒は地域毎にやはりヘブライ文字による書き言葉としてのアラビア語を発展させてきた。この書き言葉はヘブライ文字で書かれるという点では中世のユダヤ教徒のアラビア語と同じであるが、言語的には口語アラビア語を基礎としたものであり、両者の間には大きな差がある。このような現代のユダヤ教徒のヘブライ文字による文語アラビア語そのものについての研究は *Blanc Baghdad* (バグダードのユダヤ教徒の文語概説)、*Tirosh-Becker Fonologiya* (コンスタンティヌスのユダヤ教徒の文語アラビア語の音韻論と形態論) などがあるが、総じてこの分野の研究は少ない。本稿はトリポリのユダ

* 大阪外国語大学 非常勤講師

ヤ教徒の現代文語の、特に表記法に関して概観する。

1. トリポリのユダヤ教徒の文語アラビア語

アラビア語圏のユダヤ教徒の間では少なくとも9世紀以来アラビア語をヘブライ文字で表記するという伝統が確立していた (Blau *Emergence*, p. 19 ff.)。このようなアラビア語は一般に *Judaeo-Arabic* と呼ばれる。この *Judaeo-Arabic* は主として宗教関係の文書に用いられたが¹⁾、商業文や個人間の手紙など世俗的なものもある。*Judaeo-Arabic* は基本的には古典アラビア語の文法に則して書かれているが、多くの文法的な逸脱や口語的要素が含まれており、またヘブライ語やアラム語の語句が頻繁に挿入されるという点が特徴的である。このアラビア語は各地の方言要素が含まれるものであるが、古典アラビア語を基礎としたものであり、通常母音点も付されていないのでアラビア語圏のどの地域でも大体理解されるものであり (Blau *Grammar*, p. 17)、この意味で中世の中東・北アフリカ地域のユダヤ教徒の *Koiné* 的存在であった。尚、*Judaeo-Arabic* だけではなくムスリムやキリスト教徒の手によるアラビア語で古典アラビア語の文法からの逸脱や口語的要素を含むものは一般に *Middle Arabic* と呼ばれている (Blau *Emergence*, p. 49)。

このようなヘブライ文字によるアラビア語を文章語とする伝統は近・現代まで続いているが、近・現代の文語は、*Judaeo-Arabic* と比較すると口語アラビア語要素の割合が相当高くなっている。即ち中世の *Judaeo-Arabic* は古典アラビア語の基礎の上に口語的要素が混入したものであるが、近・現代の文語は口語アラビア語の基礎の上に文語的要素が混入したものであると言うことが出来る。特に19世紀以降になると各地でこの新しいタイプの文語の書籍、パンフレットの出版が行われた。出版物の多くは聖書の注解、宗教儀式の手引書などやはり主に宗教関係のものである²⁾。

中世の *Judaeo-Arabic* は、コミュニティー外との通信などにも用いられていたが、一方、近・現代の文語が対象としているのは主に特定のコミュニティー、または同一文化圏に属するいくつかのコミュニティーであったので特定の地域の口語を基礎とした文語でも十分事足りていた。例えばトリポリにはチュニジア南部のジェルバで出版された書籍が多く流布していたが、これ

1) 代表的なものとしてマイモニデス (Moše ben Maymōn 1135-1204) の *Dalālat al-hā'irīn* (迷えるもの達の手引き) やサアディヤ・ガオン (Sa'adiya ben Yūsuf 882-942) の聖書、レスポンサなどがある。

2) エジプト、イラク、レバノン、パレスチナのユダヤ教徒はヘブライ文字による口語を基礎とする文語を持ってはいえ、同時に古典アラビア語 (現代標準アラビア語という方がよりの確であろう) による文学も持っており (Moreh *Jewish*)、現在も特にイラク出身の作家の中には古典アラビア語で書く者がいる (Shmuel Moreh (1933-), Samir Naqqāš (1938-) など)。

はトリポリタニア諸都市のラビのジェルバでの研鑽 (Goldberg *Leshonam*, p. 144)、ジェルバのグリーバシナゴークへの巡礼の習慣など、ユダヤコミュニティとしてトリポリとジェルバは文化的に近い関係にあったので印刷物に含まれる多少の地域的な要素は理解の妨げとはならなかったようである。

トリポリのユダヤ教徒コミュニティにおいても1948年のイスラエル建国までヘブライ文字によるアラビア語の文語 (以下 LJT = Literary Judeo-Tripolitanian) が使用されていた。但しこのことは全ての書き言葉が専らこの言語によることを意味せず、イタリアの植民地化以降 (1911-1943) はイタリア語、またシオニズム運動の活性化と共に現代ヘブライ語による出版も行われた。

LJT は古典アラビア語とは異なり一貫した正書法が確立していない。特に定冠詞や重子音の表記法や **ל** (= و) や **י** (= ي) の使い方は様々である。本稿はこのような LJT の特に表記法に関する問題に注目し、実際にどのような表記の変種があるかを整理することを目的とする。

本稿ではテキストからの例を示すときにヘブライ文字による表記に加えアラビア文字による転写を添えた。またトリポリの現代ユダヤ教徒方言 (以下「口語」) に対応する形式が確認されている場合はその発音もイタリック体のローマ字転写で表示した。また口語の表音記号は *Yoda Tripoli* に準ずるが、長母音音素は *ā, ī, ū* のように母音字の上に macron を付した。

1.1. 利用した資料

本稿ではアラビア語で出版された次の3種類のテキストを用いた。

- (1) **ספר ערב פסח** [Book of Evening of Pesah] (Livorno 1960): ペサハ (過越し祭) に関する規定集。この中から **קצת דינים בלערבני** (قصت دينيم بلعربي) をコーパスとした (略号 P)。
- (2) **דגל ציון** *Deghel Zion* [Flag of Zion]: 1920年から1923年にかけて隔週で発行された新聞。分析の対象として No.17 (1920/12/30) の第1面をコーパスとした (略号 D)。
- (3) Y. Avishur ed. **שבחי הרמב"ם** [In Praise of Maimondes (sic.) — Folktales in Judaeo-Arabic and Hebrew from the Near East and North Africa]: イエメン、モロッコ、エジプト、アルジェリア、ジェルバ、イラク、トリポリの各方言で書かれたマイモニデスの逸話集。このうちトリポリのユダヤ教徒の間で流布していた逸話は Livorno で 1868年に **גייג' ח'י טוסף אליהו** (Eliyahu Hay Yosef Gayj(?)) の手で出版された **ספר מעשה שעשועים** “Book of Pastime deed” という本に含まれている **מעשה הרמב"ם הסארדי זיע"א** “Acts of Maimonides of Spain — his privilege shall protect us Amen” に掲載されているもの (略号 R)。

1. LJT の表記法

1.1. 文字体系

LJT で使用される文字と記号には次のようなものがある。

〈表2〉

	ج	غ	ك	خ	ف	ص	ض, ظ
P	ا	ب	ك	خ	ف	ص	ض
R	ا	ب	ك	خ	ف	ص	ض
D	ا	ب	ك	خ	ف	ص	ض

(1) 文字

基本的な文字：文語はヘブライ文字で書かれる。アラビア文字との対照は〈表1〉の通り。ヘブライ文字は22文字しかなく、口語の音素を全て表記することが出来ないの、いくつかの文字に補助記号を付して区別する。但し、この補助記号の使い方は、〈表2〉のように資料によって多少異なる。

合字：D では特に定冠詞 ...ال のためにヘブライ文字の א と ו を組み合わせた文字が使用される（本稿では下線を引いた א で表示する）。אֶלֶד (العدد) la'dād “the number”, אֶלֶוּל (الاول) lawwāl “the first”.

この合字は定冠詞以外の א の組み合わせのために用いられることがあるが、その使用は規則的ではなく時に合字で、時に個別の文字で表記される。אֶלֶד, אֶלֶוּל (كذلك) “thus” (<cl. كذلك).

また、P でこの合字が用いられる例がまれにある。אֶלֶי (إلى) alli “which, that” (P).

以下ではヘブライ文字による例の後に、アラビア文字による対応を付しておく。

(2) 記号類

母音記号：今回取り扱った資料では母音記号は一切付されていない。

Dageš：ヘブライ文字の dageš は2つの機能がある。1つはアラビア文字の šaddah に相当するもので重子音を示し、もう1つは閉鎖音を示す。即ちヘブライ語、アラム語で b, g, d, k, p, t の音は母音の直後で摩擦音 b, g, d, x, f, t となるが、この記号が付いている場合は母音の直後でも常に閉鎖音で発音されることを示す。アラビア語にはこのような摩擦音化現象が無いので、LJT では特に א, כ がそれぞれ z, x ではないことを示す。尚、今回取り

〈表1〉

ا	= א
ب	= ב
ج	= ג
غ	= ג
د	= ד
(ذ)	= (ד)
ه	= ה
و	= ו
ز	= ז
ح	= ח
ط	= ט
ي	= י
ك	= כ/כּ
خ	= ח/חּ
ل	= ל
م	= מ/מּ
ن	= נ/נּ
س	= ס
ع	= ע
ف	= פ/פּ
ص	= צ/צּ
ض, ظ	= צ/צּ
ق	= ק
ر	= ר
ش	= ש
ت	= ת
(ث)	= (ת)

扱った資料では P 以外では *dageš* は表示されない。

- (a) 重子音記号として : אלי (אלי) *allī* “which, that (rel. pron.)” (P) (cf. אלי (אלי) [P]), ינצף (ينصف) *ynaddaf* “he cleans” (P).

しかし P での使用も義務的ではない。מא יתנצפושי (ما يتنصفوش) *yatnaddfūši* “they are not washed” (P). 重子音の表記法に関しては 2.2.6. を参照せよ。

- (b) 閉鎖音記号として : ויגרבהא (ويجرجهها) *w-ygərgəbā* “and he rolls it (f.)” (P), מאכלא (مأكلا) *māklā* “food” (<cl. مأكلة) (P), כאן (كان) *kān* “it (m.) was” (P) (cf. כאן [P]).

摩擦音記号 : R において本来口語の音素ではない歯間摩擦音を示す記号が ט, ת に付けられることが稀にある。

- (a) תם に対応する טת には常に摩擦音記号が付く。
(b) ת は次の例のみ。כדאבין (كذابين) *kaddābān* “liars” (R), אלדי (الذي) “which, that (rel. pron.)” (R), ידחך (يدحك) *yadhək* “he laughs” (<cl. يضحك) (R), דדן (هذن) *ddan* “he ordered” (<cl. أذن) (R).

2.2. 表記法の特徴

2.2.1. 伝統的な綴字と実際の発音に対応した綴字

- (1) 口語には古典アラビア語にはない音素 (*b, l, m, n, r, z* 等) があるが、これらは LJT の表記では全く反映されない。אלטובא (الطوبيا) *aṭṭəbbā* “doctors” (<cl. أطباء) (R), יוריהום (يوريهم) *ywarriam* “he shows to them” (<cl. يورّيههم) (P).
- (2) 古典アラビア語の形式に歴史的に関連がある口語の形式が、主に強勢音化、非強勢音化、同化による有声音化、無声音化などのため古典アラビアと異なる音で実現している場合、口語で実現している音を表記する文字が LJT にある場合、その多くは実際の発音が反映される。
- (a) 強勢音化 : צאבק (صابق) *ṣāḥəq* “preceding” (<cl. سابق) (P), וצט (وسط) *wəṣṭ* “middle” (<cl. وسط) (P), צטחקהום (يصطحقهم) *ṣəṣṭḥəqqəm* “it merit them” (<cl. يستحقهم) (P), אלא (الراس) *aṭṭāṣ* “the head” (R).
- (b) 非強勢音化 : דייק (ديق) *dəyyəq* “narrow” (<cl. ضيق) (P).
- (c) 無声音化 : יכסל (يخسل) *yəxsəl* “he washes” (<cl. يغسل) (P).
- (3) しかし伝統的な古典アラビア語の表記が重視され、実際の発音と異なる表記が行われることもある。נקסמוהם (نقسموهم) *nqəṣṣəmūam* “we divide them” (D), תסעה (تسعه) *təṣ‘ā* “nine” (R).

2.2.2. ʾ (alef)

2.2.2.1. 母音を表す ʾ

(1) 語頭の ʾ

- (a) 古典語の短母音に対応 : ʾלדי (الذي) “which, that (rel.pron.)” (R), ʾללה (الله) “God” (R), ʾייאם (ايام) *ayyām* “days” (<cl. أَيْام. (P), ʾמ (אם) *amm* “mother” (P), ʾמור (امور) *wmūr* “matters” (<cl. أُمُور (R)³⁾.
- (b) 古典語の短母音に対応しているが、口語では短母音が現れない場合 : ʾננא (اخواننا) *xwānnā* “our brethren” (D), ʾננא (احنان) *hnān* “we” (cf. TuM. *aḥnā*) (D), ʾגאר (ازغار) *zġar* “smaller” (<cl. أصغر (P), (cf. ʾתר (كثر) *kčar* “more” <cl. أكثر ⁴⁾ (P), ʾולדו (اولادو) *wlādū* “his children” (R).
- (c) 古典語の短母音に対応しているが、口語では長母音化している場合 : ʾבאדן (ابادن) *ābādōn* “never” (<cl. أَبَدًا (D), ʾמאן (امان) *āmān* “safety” (R).

(2) 語中の ʾ

- (a) 古典語の長母音 *ā* に対応 : ʾודאם (قودام) *qaddām* “in front of” (<cl. قَدَام. (R), ʾליאן (مليانين) *malyānīn* “full (pl.)” (P), ʾאבעין (تابعين) *čāb‘īn* “following (pl.)” (D), ʾולאב (دولاب) *dūlāb* “cupboard” (P).
しかし P では *ā* が ʾ で表記されない例が見られる。ʾדولב (أدولب) *addūlāb* “cupboards” (P).
- (b) ʾ が ʾ, ʾ と組み合わされて古典語の *aw*, *ay* に対応する (それぞれ ʾאו (او), ʾאי (اي) と表記される。尚、*w*, *y* が重子音の場合を除き古典語の *aw*, *ay* は、口語では通常長母音 *ū*, *ī* に対応する) : ʾאיצהם (غايظهم) “their anger” (<cl. غَيْظُهُمْ (R), ʾשי (شيء) *šī* “thing” (<cl. شَيْء. (P), ʾאור (خاوف) *xūf* “fear” (<cl. خَوْف. (R).

(3) 語末の ʾ

- (a) 古典語の短母音 *a* に対応 : ʾליא (عليا) *‘līyā* “on me” (<cl. عَلِيّ. (R).
- (b) 古典語の *ʾalif* に対応 : ʾלדניא (الدنيا) *ddānyā* “the world” (<cl. الدُّنْيَا. (R).
- (c) 古典語の *ʾalif maqṣūrah* に対応 : ʾלא (علا) *‘lā* “on” (P), ʾתא (حتّا) *ḥatčā* “even” (<cl. حَتَّى. (P).
- (d) 古典語の *ʾalif mamdūdah* に対応 : ʾלמא (لما) *lmā* “the water” (<cl. الْمَاء. (P), ʾלדוא (الدواء) *addwā* “the medicine” (<cl. الدَّوَاء. (R).
- (e) 古典語の *tā’ marbūṭah* に対応 : ʾמאסבא (مناسبة) *mnāsba* “occasion” (<cl.

3) この語では古典語の *u* が口語では *w* に対応している。また変種として ʾמור (امور) *wmūr* (DI) がある。ʾמור と ʾמור の表記の違いは、前者が古典語に依拠した表記であるのに対し、後者は口語の発音に依拠していることによる。

4) 口語では比較級のパターンは CCaC である。

5) ʾולדו では ʾ は常に表記される。語頭添加文字と解釈することも出来る。

مناسبة) (R), רָעָא (رقعا) *raq'ā* “patch” (<cl. رَقْعَة) (P).

(b) から (e) は名詞の語末形式である。古典語ではそれぞれ異なった語末形式であるが口語では区別されない。

2.2.2.2. 歴史的根拠のない נ

(1) 咽頭音の直前の נ : 咽頭音 (ח, ע, ק) の直前で短母音を表現するために נ が用いられることがある。

(a) 語 頭 : נאקבל מא (اقبل ما) “before” (<cl. قبل ما) (P) (cf. נאקבל מא (قبل ما) (P)), נאעטא (اعطا) *īā* “he gave” (R) (cf. נאעטא (عطى) (R)), נאעמל (اعمل) *mal* “he did” (<cl. عمل) ..., וחיין דכל לבלאד אהלם ... “and when he entered the country he dreamed” (R) (cf. ... מתל מא חלם ... “as he dreamed” (R)), וזאדא אעל נאעלל “and in addition on ...” (R).

(b) 語 中 : נאענדו (يقاعدو) *yqā'dū* “they sit” (<cl. يقعدوا) (P, R), נאעד (باعد) *bā'ed* “after” (<cl. بعد) (P), נאעל (يرجاع) *yāržā'* “he returns” (<cl. يرجع) (P), נאעה (ما تاعرفشي) *ma čā'rafši* “she does not know” (P), נאעפאח (تفتح) *čafčəḥ* “it (f.) opens” (<cl. تفتح) (P).

(2) 重子音の直前の נ : 特に動詞派生形第 II 型、第 V 型とその分詞で第1語根と第2語根 (重子音) の間に נ が現れることがある。נאעב (وجارבו) *w-žarḇū* “he tried him” (<cl. وجربه) (R), נאעגבין (متعجبين) *māč'əžžbīn* “surprised (pl.)” (<cl. متعجبين) (R), נאעגב (يتعجب) “he is surprised” (<cl. يتعجب) (R), נאעמו (يخامو) *yxammū* < **yxammū* “they think” (R).

(3) その他 : נאקואדי (القواضي) *laqwādī* “the qādīs” (R)⁶⁾, נאגאר (ازغر) *zğār* “smaller” (<cl. أصغر) (P), נאול (اوولا) *wallā* “or” (<cl. وألّا) (P), נאיה (واحيها) *w-žīā* “and side” (<cl. وجهة) (P), נאענ (اماعن) *māmā'an* “utelsils” < **mwā'an* < *mawā'in* (<cl. مواعين) (P) (cf. נאענ (لماعن) *lāmāmā'an* “the utelsils” (P)).

2.2.3. ה (hē)

現代のトリポリのユダヤ教徒口語には *h* が音素として存在しないが (Yoda Tripoli, p. 84)、LJT では ה の文字が歴史的な *h* を表すのに用いられる。その用法は特定の語、特に指示代名詞、人称代名詞などでは比較的誤りが無いが、それ以外の場合では歴史的に *h* に対応しないものにも ה の文字が使われる (過剰修正) など表記にゆれが見られる。但し、D ではそのような表記のゆれは見られない。逆に歴史的な *h* が ה で表記されない例はどのテキストからも検出され

6) 複数形は口語では قُضَاة ではなく قَوَاضِي である。第3語根の *y* が ʿ と解釈され、その結果 נ で表記されるようになったものと考えられる。

なかった。尚、リビア内のいくつかのユダヤ教徒口語では *h* が保持されている。

2.2.3.1. 歴史的な根拠のある *h*

קאלו להו (قالو له) *qālū lū* “they said to him” (<cl. قالوا له (R), *ādī* (هادي) “this (f.)” (<cl. هذه (P), *nārū* (نهارو) “its day” (<cl. نهاره (P), *ārāb* (هرب) “he fled” (R), *yūd* (יהוד) “Jews” (P), *wəžžam* (وجههم) “their face” (<cl. وجههم (R), *dəšš~ddəš* (دهش) “he fainted” (R), *mā fīyāš* (ما فيه) “there is not” (P), *bādī* (بهادي) “with this” (P).

2.2.3.2. 歴史的な根拠のない *h*

āmā (هاما) “but” (<cl. أمّا (P), *āš* (هاش) “what” (<cl. أيّ شيء (R) (cf. *nbī llā* (نبي الله) “prophet of God” (<cl. نبي الله (R), *addan* (اهدن) “he ordered” (<cl. أذن (R), *ma y‘əṭṭəlšī* (مه يعطّلشي) “he does not neglect” (<cl. ما يعطّلشي (P).

2.2.4. *ṽ* (*vāṽ*)

古典語と同様、文語では子音 *w* を表すと同時に長母音 *ū* を表す。また稀に歴史的な短母音 *u* を表す。

2.2.4.1. 子音 *w* を表す *ṽ*

子音としての *w* は、それぞれ1つ又は2つの *ṽ* (و) で表記される

(1) 1つの *ṽ* で表記される例

- (a) 短母音の直前: *wəqč* (وقت) “time” (P), *mā wəṣṣəlāšī* (ما وصلهاشي) “it did not reach it (m.)” (P).
- (b) 長母音の直前: *wāḥad* (واحد) “one” (P), *lwāžəb* (الواجب) “the obligation” (D), *ydāwī* (يداوي) “he treats” (R), *čədwī* (تدوي) “she talks” (P).
- (c) 子音の直前又は語末: *yəqḏīw* (يقضيو) “they carried out” (<cl. يقضوا (R), *maqšūda* (مقصودها) “its purpose” (D).

(2) 2つの *ṽ* で表記される例

- (a) 短母音の前: *ywəṣṣīam* (يوورّيهوم) “he shows to them” (<cl. يوورّيهوم (R), *y‘āwəd* (يعاود) “it (m.) repeats” (<cl. يعاود (P), *flūwəq* (فلووقت) “she talks” (P).

7) この語では古典語の *u* が口語では *w* に対応している。また変種として *wmūr* (امور) “he shows to them” (DI) がある。この語では古典語の *u* が口語では *w* に対応している。また変種として *wmūr* (امور) “he shows to them” (DI) がある。この語では古典語の *u* が口語では *w* に対応している。また変種として *wmūr* (امور) “he shows to them” (DI) がある。

falwāqč “in the time” (<cl. في الوقت (P)).

(b) 長母音の前 : סוואני (*swānī* “vegetable garden” (<cl. سوانِ (D), כוואז (*kwāz* “small jugs” (D), ג'לווא (*ḡalwā* “boiling (see Barthélemy p. 582)” (<cl. غلوة (D), קוויא (*qwīyā* “strong (f.)” (<cl. قوية (R), אדוולב (*əddwālāb* “cupboards” (P).

(c) 子音の直前または語末 : בדאוו (*bdāw* “they began” (<cl. بدأوا (P), מא זכאושי (*ma zkāwšī* “they do not obtain” (P), טאוולא (*tāwla* “table” (<cl. طاولة (P), לנגאוובו (*lנגאוובו* “in order that we answer” (D), נתרנגאווהו (*ntarngāwōhō* “we hope him” (<cl. نترجاء (D), לאו (*lāw* “light” (<cl. ضوء (P).

2.2.4.2. 母音を表す ı

(1) 古典語・口語の *ū* に対応 : 長母音 *ū* は通常一つの ı (و) で表記される。
יהוד (*yehūd* “Jews” (D), מקצודה (*maqṣūdā* “its (f.) purpose” (D), חקוק (*ḥqōq* “rights” (D), כונו (*kōnō* “be! (pl.)” (R), דולאב (*dūlāb* “cupboard” (P), קומנא (*qōmnā* “our people” (D).

(2) 古典語の短母音 *u* に対応 : CVCC のような環境で *V* が歴史的に *u* に対応する場合 ı で表記されることがある (Blau *Diqduq* p.21)。כול (*kōl* “all” (<cl. كلّ (R), חומא (*ḥōmā* “they” (<cl. هم (P), רודו (*rōddū* “put (pl. back!” (<cl. رَدُّوا (R), קולנא (*qōlnā* “we said” (<cl. قُلْنَا (P), קולת (*qōlāt* “I said” (<cl. قُلْتُ (R), חוכמו (*ḥōkmū* “his judgement” (<cl. حُكْمُهُ (R), כורסי (*kōrsī* “chair” (<cl. كُرْسِيّ (R), יומכן (*yōmkān* “maybe” (<cl. يُمكن (P), קודאם (*qōddām* “in front of” (<cl. قَدَام (R) (cf. קדאם (*qādam* “and he agreed with them” (R)).

但しこの *u* は必ずしも古典語の *u* に対応するものではない。TRJ には短母音音素は *ə* 1つであるが、音韻環境によって [u ~ o] のように実現する。このような場合もその短母音が *u* と解釈され ı で表記されることがある。טוב (*tōbb* “medical science” (<cl. طِبّ (R), פומהא (*fōmmā* “her mouth” (<cl. فَمَهَا (P60).

2.2.5. ı̣ (yōd)

古典語と同様、文語では子音 *y* を表すと同時に長母音 *ī* を表す。

2.2.5.1. 子音を表す ı̣

子音としての *y* は、それぞれ1つ又は2つの ı̣ (ي) で表記される

(1) 1つの ı̣ で表記される例

- (a) 短母音の前 : יעטיוהום (يعطيوهم) *yəṭiwəm* “they give them” (<cl. يعطوهم (R), ישכיו (يشكوا) *yəškīw* “they complain” (<cl. يشكوا (R).
- (b) 長母音の前 : מציוגין (مصبوغين) *mašyūgīn* “worked in gold and silver” (<cl. ويهيء (R), וליא (وعيا) “and he became tired” (<cl. عبي (R), אלקראיא (القرايا) “the study” (<cl. القراءة (R), יוקאע (يقع) *yūqəʿ* “it happens” (<cl. يقع (P).
- (c) 子音の前又は語末 : יעין (يعين) *y'in* “he helps” (R), פי (في) *fī* “in” (R).
- (2) 2つの יי で表記される例 : このような例は短母音の前でのみ確認された。
שייט (شيش) *šyāṣ* “bottles” (P), דאייס (دائيم) *dāyām* “always” (<cl. دائم (P).

2.2.5.2. 母音を表す

- (1) 古典語・口語の *ī* に対応 : 長母音 *ī* は通常1つの י (ي) で表記される。
- (a) 1つの י で表記される例 : מליח (مليح) *mlīḥ* “good” (R), יעטיוהום (يعطيوهم) *yəṭiwəm* “they give them” (<cl. يعطوهم (R), ישכיו (يشكיו) *yəškīw* “they complain” (<cl. يشكوا (R), באקין (باقين) *bāqīn* “remaining (pl.)” (R).
- (b) 2つの יי で表記される例 : 主に第3語根弱子音語幹の名詞の男性規則複数形の場合 *ī* が יי で表記される。לאהיין (لاهيين) *lāīn* “occupied (pl.)” (P), באקין (باقين) *bāqīn* “remaining (pl.)” (D).
- (c) 語末の *īyā* (*nisbah* 形容詞の女性形等) : יהודייה (يهوديا) *yūdīyā* “Jews” (D), הייה (هييا) *īyā* “she” (P).

2.2.6. 重子音

重子音は同一の子音が2つ書かれる場合と、1つだけの場合とがある。

- (1) 子音文字1つによる表記 : P では *dageš* が付けられることがある。חתא (حتا) *ḥatcā* “even” (<cl. حتى (P), מה יעטלשי (مه يعطلشي) *ma y'əṭṭəlšī* “he does not neglect” (P), ילתמו (يلتمو) *yəlčəmmū* “they come together” (<cl. يلتّموا (P), חמד (حد) *ḥədd* “no one” (<cl. أحد (P), תרד (ترد) *črədd* “you (sg.m.) bring back” (P), תחט (تخط) *čḥəṭṭ* “she puts” (P), יחטו (يحطو) *yḥəṭṭū* “they put” (<cl. يحطوا (P), למאען (لماعن) *ləmmā'ən* “utensils” (<cl. المواعين (P), אוולא (اوولا) *wallā* “or” (<cl. أوّلا (P, R), אולא (اولا) *əwllā* “they came together” (<cl. تجتمعوا (R), טוב (طوب) *təḥḥ* “medical science” (<cl. طب (P), קודאם (قودام) *qəddām* “in front of” (<cl. قدام (R), אדוא (ادوا) *əddwā* “the medicine” (see definite article) (<cl. کل (كل) *kəll* “all” (<cl. كل (R), תמא (تما) *čəmma* “there is” (<cl. ثمّ (R), תנייתו (تنييتو) *tnīyčū* “his way” (<cl. ثنيّة (R), מזורין (مزورين) *mzəwwrīn* “forger” (P), גורתו (جورته) *žərr'čū* “his trace” (<cl. جرّته (R), לא (ضد) *lā* “against”

(P), (P) (נַתְּכַלְמוּ <cl. תַּכְלֵם) “we talk” (P), (R) (אִיָּאם) “days” (R).

(2) 同一の子音文字2つによる表記: יתכוון (يتكؤون) *yəčkawwan* < Heb. תכון
 “he intends” (P), ימשיהא (يمشيهَا) *yməššīā* “he let her go” (< cl. عَمَّشِيهَا), תעללם
 (الطوبيا) *aṭṭəbbā* “the physicians” (< cl. الأطبَّاء), תברר (تبرَّح) *it* (f.) informs” (< cl. تَبَرَّح),
 בייננא (بيننا) *bəyyənnā* “we in-
 formed” (< cl. بَيَّنَّا), אליהודיא (اليهوديا) *lihūdiyā* “Jewish (f.sg.)” (< cl. اليهودية),
 מננא (منا) *mənnā* “from us” (< cl. مِّنَّا), אחوانא (إخوانا) *xwānnā* “our
 brethren” (< cl. إِخْوَانَا), תתסייר (تتسير) *it* (f.) observe” (< cl. تَتَسَيَّر),
 המרר (المرا) *Imərrā* “the time” (< cl. أَثَمَّهَا), “that it (f.sg.)...” (< cl. أَنَهَا) (انها)
 “personal (f. sg.)” (< cl. تَكَلَّمْنَا), תכללמנא (تكللمنا) *we talked*” (< cl. حَاصِصَا)
 נתרנג.אוהו (متلقي) *receiving* (m.sg.)” (< cl. حَاصِصَا) (متلقي) *receiving* (m.sg.)” (< cl. حَاصِصَا)
 “in order that” (نترجاه) *we hope it* (m.sg.)” (< cl. نَتَرْجَاهُ) (نترجأوهو)
 “it (m.sg.) developed” (< cl. اتقدد) *it* (m.sg.) developed” (< cl. اتقدد) *it* (m.sg.) developed” (< cl. اتقدد)
 מחמיא (محميَا) *məhmīyā* “heated (f.)” (< cl. يَطْلَعُ) *he raises*” (P),
 שוייא (شوييا) *šwəyyā* “a little” (P),
 אַיַּאם (أيام) *ayyām* “days” (< cl. أَيَّام) (أيام) *ayyām* “days” (< cl. أَيَّام) (أيام)
 “a little” (P)

w の重子音は常に ʋ で表記される。יתכוון (يتكؤون) *yəčkəwwən* < Heb. התכוון “he intends” (P), לוול (لول) *lawwal* “the first” (< cl. الأول) (P).

2.2.7. 定冠詞の表記

Pでは $\aleph(I)$ 又は $\omega(\dots J)$ で表記される。前者は太陽文字で始まる語の前、後者は月文字で始まる語の前に現れる。Dでは規則的に $\omega\aleph(\dots J)$ で書かれる。Rでは通常 $\omega\aleph(\dots J)$ で表記されるが、時に $\aleph(I)$ も現れる。

- (1) ☸ + 太陽文字 : אדווא (*addwā* “the medicine” (<cl. الدواء. (R)(cf. האד אלדווא (אנוואר) *annawār* “the flowers” (<cl. النوار. (P), אצזר (*aššazər* “the trees” (<cl. الشجر. (P)), אדקיך (*attqīq* “the flour” (<cl. الدقيق. (P)), אדולאב (*addūlāb* “the cupboard” (<cl. الدولاب. (P)).
- (2) ☸ + 太陽文字2つ : 太陽文字に同化した重子音を2つの同一の文字で表記する例。P に固有の表記だが常にこの表記であるということでもない。יטיר (*yīr ṣṛriq* “the salive is spitted” (<cl. الريق. (P)).
- (3) ל のみ : P では文頭でも ל が現れる。מתיע למאכלא (*nčā’ almākla* “of the food” (P), למא (*lmā* “the water” (<cl. الماء. (P)), מן לגילווא (*malǧalwā* “from the boiling” (<cl. من الغلوة. (P)).
- (4) ☾ + 月文字 : מן אלחכמה (*min alḥkma* “from the judgement” (R), אלטובבא

אלחאלא “as usual” (R), (متل العادا) מתל אלעאדא “the doctors” (R), (الطوبيا) lhālā “the condition” (D), (الحالا) אללאלואא (الصلوات) əṣṣlāwāʿ “the synagogues” (D).

- (5) 1文字からなる前置詞との組み合わせ : בלחקיקא (بلحقيقا) “in fact” (<cl. بالفحيقه) (D), פלסאבאק (فلسابق) fəssābaq “previously” (D), פצזר (فصّزر) fəṣṣəzər “in the trees” (<cl. في الشجر) (P), פלל (فلّيل) “in the night” (<cl. في الليل) (P), פלכח (פלכח) fləḥḥa “in the sea” (R), ללחוש (للحوش) “to the house” (P), לצולטאן (لصولطان) ləṣṣəltān “for the Sultan” (R), ללארץ (للارض) ləllərd “to the earth” (R).

3. まとめ

本稿は LJT の表記法の問題を扱ってきた。LJT には一貫した正書法が確立していないので、同一の語に対して異なった表記法が存在する。口語の発音にかかわらず古典アラビア語の表記を忠実にヘブライ文字に置き換えた表記がある一方で、口語の発音に適合した表記もある。

口語には音素として *h* は存在しないにもかかわらず、LJT では ה が用いられ、過剰修正 (האמא (הא) āmā “but” <cl. أمّا (P)) や、同一資料内での ה の使用の混乱 (מה (مه), מא (ما) “what” <cl. ما (P), עומר (عومرو) עומר (عومره) “his age” <cl. عمره (R)) が見られる。

また重子音の表記にも混乱が見られる。P では多くの場合、特に表記しないが、時に dageš で表記される; אלי (الي) allī “which, that (rel. pron.)”, חתא (حتّا) ḥatcā “even” <cl. حتىّ. R では特に表記しないか、又は子音字を2つ表記する; תתעלם (تتعلم) ṭəṭʿəlləm “she learns”, יתעלם (يتعلم) yaṭʿəlləm “he learns”.

また定冠詞の表記法も様々であり (ל, אל, ל), 特に ל, ב, פ のような一文字からなる前置詞の後の定冠詞の後に太陽文字で始まる語が来る場合には全く表記されない場合もある (但しこの場合は dageš が付されることもある); פצזר (فصّزر) fəṣṣəzər “in the trees” (<cl. في الشجر), לצולטאן (لصولطان) ləṣṣəltān “for the Sultan” (<cl. للسلطان). また י, ם の表記は比較的統一性があり、重子音の場合はそれぞれの文字が2つ用いられる。

LJT は形態論、統語論の領域においても興味深い要素を含んでいるが、これらの問題の検証、そしてその検証に基づく LJT の総合的な研究は別の機会に譲ることとする。

[コーパス]

- (1) הגדה של פסח ערב פסח (S.l., n.d.)
- (2) דגל ציון
- (3) Y. Avishur ed. שבחי הרמב"ם (*In Praise of Maimondes (sic.)—Folktales in Judaeo-Arabic and Hebrew from the Near East and North Africa*) (Jerusalem 1998).

[参考文献]

- R. Attal, *Periodiques juifs d'Afrique du nord* (Jerusalem 1980).
- H. Blanc, "Notes on the Literary Idiom of the Baghdadi Jews" in *For Max Weinreich on his Seventieth Birthday Studies in Jewish Languages, Literature, and Society*, ed. L. S. Dawidowicz, et al. (The Hague 1964) 18–30.
- J. Blau, *A Grammar of Medieval Judaeo-Arabic* 2nd. ed. (Jerusalem 1980).
- A. Barthélemy, *Dictionnaire Arabe-Français. Dialectes de Syrie, Alep, Damas, Liban, Jérusalem* (Paris 1935–1969).
- J. Blau, *The Emergence and Linguistic Background of Judaeo-Arabic: A Study of the Origins of Neo-Arabic and Middle Arabic* 3rd revised ed. (Jerusalem 1999).
- H. Goldberg, "Al Leshonam ve-Tarbutam shel Yehudey Tripolitaniya" *Leshonenu* 38 (1974) 137–147. (in Hebrew).
- O. Tirosh-Becker, *Fonologiya u-Frakim be-Morfologiya shel Targum le-Sefer Tehillim be-Aravit-Yehudit mi-Konstantin (Aljerya)*, unpublished M.A dissertation, The Hebrew University, Jerusalem (1988). (in Hebrew).
- S. Yoda, *A Description of the Arabic Dialect of the Jews of Tripoli (Libya). Grammar, Texts and Glossary*, unpublished Ph.D. dissertation, the Hebrew University (Jerusalem 2000).
- S. Moreh, *Arabic Works by Jewish Writers* (Jerusalem 1973).